

裁判傍聴フィールドワーク 2023.7.7



選択授業「政治経済」選択者の希望者対象による裁判傍聴に 17 名の生徒が参加しました。

七夕の日ということで、大国町駅で短冊に願い事を書いたりしながら移動しました。淀屋橋駅下車後、中央公会堂（写真）の辺りを紹介・散策し、裁判所に行ってきました。

傍聴は班ごとに分かれ、様々な事件の新件・審理・判決を見学することができました。

とても暑い中でしたが、教室では体験できない「学び」があったと思います。

社会科 西口 直樹

生徒の感想

裁判官から見てどちら側に弁護士、どちら側に裁判官などと、どの法廷でも決まっていると思っていましたが、法廷によっては反対側であることがあることを初めて知りました。

検察官と弁護士の人が堂々としていてカッコよかった！裁判官も優しかった！

裁判所に行ったことがなかったからどんな感じが知らなかったけど、警備も厳重ですごかった！あと、あんなに法廷の数がいっぱいあるなんて知らなかった。ドラマとかでしか見たことがなかったから、激しいイメージがあったけど、全然激しくなかった。部屋の大きさの違いは何か気になった。

検察官や弁護士の方たちが凄く分厚い本やプリントを見ながら話していてすごいと思いました。どのくらいの期間をかけて証拠などを探してまとめるのか気になりました。4つ回って弁護士の数や検察官の数が裁判によって違うのは何故なのか気になりました。

今回のフィールドワークに参加するか悩んでいたけど、友達に誘われて参加して良かったと思いました。また裁判傍聴したいと思いました。

弁護士と検察官の方が交互で述べることにおどきました。人生初の裁判所傍聴が本当に有意義で、勉強になりました！

覚せい剤取締法違反、公務執行妨害、傷害の3つの裁判を傍聴し、それぞれ新件、審理、判決だった。最初に傍聴したのは審理で被告人尋問が行われていた。検察官のするどの質問にも「よく覚えてない」と言っててそばで聞いているだけでは事実かどうか判断出来ないと思った。また、傷害は実刑判決が出た。過去にも2度前科があって、刑務所に入っていたこともある人がなぜ再犯するのかと疑問に思った。もちろん被害者がいるから償わなければいけないと思うけど裁判で傍聴してるだけでは拾えない事情や理由があるのかもと考えさせられた。今日一番印象に残ったのは新件の覚せい剤取締法違反。弁護人が質問して被告人が答えたことを検察側が深掘りしてボロを狙ってるような質問の仕方をしていた。後日、判決が行なわれるので都合がつけば見に行きたいと思う。

思ってた裁判の感じじゃなかったので自分の中での固定概念が変わっていい思い出になりました。

裁判とは形式的なものでなく、人間味が感じられるものだとわかりました。私は、特殊詐欺グループの金をビットコインに変えるグループに流す作業を知らずに任されてしまった人、仲間の少年の犯行を止めるように助言できず手伝ってしまった人、脳梗塞の脊髄の痛みを覚醒剤で楽にすればいいと周りから助言をもらい、使ってしまった人など、どの人も誰かに騙されて使われてしまったり、とてつもない苦しみを経て罪をしてしまったり、社会的、経済的に弱い立場である方が多いと感じました。確かにこの方たちは犯罪を犯していますが、主犯を手伝ってしまったたり、苦しみからどうにもならずそうしてしまった人が多く、この人たちを裁く側も辛い判決で、傍聴する側も裁く人の思い、裁かれる人の思いを感じて辛くなるものです。

今までドラマとかで見てきた裁判とはまた違った感じで驚きました。私はEテレでやっている「昔話法廷」という番組が元々大好きで、その影響で裁判については結構興味があったのですが、今回のフィールドワークでもっと興味がでてきて裁判官とか検察とかめっちゃかっこいいと思いました！自分には到底なるのが難しい職業とはわかっているのですが、将来あんな風にかっこよく仕事をこなせる人間になりたいと思います。

とてもピリついて傍聴している側も緊張しました。新件を聞いていると裁かれる人の人生が少し知れるのだなと思いました。予定時間よりも早く終わるのだなと思いました。もう少し裁判は長いものだと思っていました。

思っていたより空気が重くなく、大きな会議のようだと感じましたが、被告人の周りの環境や住所、プライベートな話が多く語られ、関係ない私のような傍聴者がそんな踏み入った話まで聞いても良いのだろうかという居た堪れない気持ちにもなりました。また、検察官の居る側の机に六法全書が置いてあることに驚きました。

